

『武家の古都・鎌倉』塾

第1回講義 「武家の政権とまちの構造」

2007.9.1(土) 9:30-12:00 鎌倉生涯学習センター

武家政権発祥の地<古都・鎌倉>は、武家独自の王権を示す都市構造を持った、日本唯一の文化遺産であることが話されました



◎ 開講あいさつ

今、鎌倉は世界遺産登録を進めるために、史跡の発掘調査、保全、国指定の促進などを通じ、中世鎌倉の歴史的、世界的価値を明らかにし、その姿を市民、国民そして世界の人々の目に見えるものにしようと努力していますが、世界の人々に鎌倉の普遍的な価値の認識を深めてもらうためには、なお大きな知恵と努力が求められています。

そこで、市内70団体の参加する鎌倉世界遺産登録推進協議会では、まず鎌倉の歴史を知ること、そしてそこから学び、且つ伝える先達の養成を目指して「武家の古都・鎌倉塾」を設立しました。幸い短期間に多くの皆さんに応募していただきました。ここで学んだこととその成果を、自信を持って周りの人々に伝えていただき、世界遺産鎌倉を必ず実現しようではありませんか。

(武家の古都・鎌倉塾実行委員会委員長 柳下実)

◎ 第1回講義要旨

鎌倉塾のはじめにあたって最初にお話しした事は世界遺産登録の意義です。

その第一は平和の問題です。「世界遺産登録は平和への道づくり」とお話ししました。ユネスコ憲章前文には「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」との有名な言葉があります。お互いの風習や生活を知らないことが、しばしば戦争の原因となったということも述べられています。世界中の人びとがお互いの文化を互いに理解しあうことが平和への第一歩であり、世界遺産はそのツールであると考えています。

第二は、鎌倉市にとっては継続して取り組んで

きた「歴史的遺産の保全」にあり、「鎌倉市民憲章」で述べられている「わたくしたちは、鎌倉の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊から守り、責任をもってこれを後世に伝えます。」とある事項の具現化であると位置付けています。そして近代になって出来上がった鎌倉のまちを古都にふさわしいまちにしていこうため、世界遺産登録はまちづくりの明確な指針となるものと考えています。

次に鎌倉の歴史的遺産の世界的視点に立った遺産の価値について、以下の4つの考え方を話しました。あくまで検討途中の段階ですが、

- ① 武家政権の発祥地を示す遺産群。
- ② 日本文化の基調の一つをなす武家文化・禅宗文化の源流を示す遺産群。
- ③ 独自の土木的発想で造営された都市遺構群。
- ④ 市民運動の成果等により保護が図られた遺産群。

であることです。

続いて、最初のテーマ「武家の政権とまちの構造」に沿って、①の武家政権の発祥地を示す遺産群について話しました。要旨は

- 1) 『太平記』に述べられているように、鎌倉の主である鎌倉殿は日本国王であったと認識されていたこと
- 2) 鎌倉は武家が初めて自ら造った政権都市であり、独自の王権を表す都市の構造をつくり上げていること
- 3) 武家が自ら造った政権都市の遺産は鎌倉しかないこと

です。武家が鎌倉につくり上げた都市の構造は鶴岡八幡宮・法華堂跡・荏柄天神社・永福寺跡等の位置に表されており、それぞれの歴史的遺産がその場所に営まれた歴史的意義があること、海と山に囲まれた鎌倉が、京都や奈良に代表される中国からもたらされた都城制とは異なる交通路と防御の体制を持っており、独自の都市の構造を形づくっていたことをお話ししました。

(鎌倉市世界遺産登録推進担当 玉林美男)